

水分不足と睡眠不足に
注意してゆきましょう。



日本共産党北区区議員

さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団

2021.8.5.No.1819.

御相談はお気軽に

TEL とも 3905-0970

FAX

さがらとしこ事務所

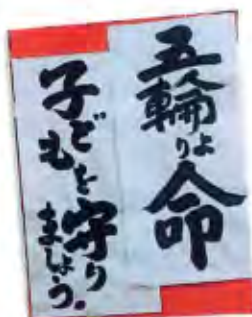
赤羽北3-23-17

(バス停「赤羽北3丁目」メダンテ付近)

8/2~8/9 原水爆禁止世界大会2021に呼応して
核兵器廃絶国際共同行動 "平和の波"

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ
そして福島...全国各地で **日本政府は禁止条約の批准を**

私たちも、署名やプラスタ、掲げて意志表示したいですね。



五輪の中止とともに
事業所や家庭、学校など
検査を広げることが大切

8月2日、国会内での小池 晃書記局長が強調。

「**しんぶん赤旗**」
8月4日付 **コロナ感染** 原則自宅療養という
政府方針を批判

1面と4面には、厚労省のコロナ対策を助言する
専門家組織である「アドバイザリーボード」のメンバー
北区保健所の前田秀雄所長のインタビュー
一記事が掲載されています。この「レポート」の裏
面でご紹介しています。ぜひ、お読みください。

そして、どうぞ、みなさんの感想やご意見など
お寄せください。

50歳代の方のワクチン
3,500人分 限定
8月4日(土)正午から
予約受付封と、
北区が緊急対応を発表した

都営住宅募集
8/2~8/16 渋谷区
(A) (B) 必着です。
▶一般募集と
ポイント募集が
あります。
ご相談は、さがら事務所
3905-0970へ

86号線原告団ニュースより一部紹介

湧き水を涸らすおそれのある
道路は絶対に通させない!!

東京23区内の湧き水は、宅地造成の関係もあってほとんどが涸れてしまっています。都内
の中でもここほどの水量は珍しく、何としても残さなくてはなりません。自然は一度壊し
たら戻せないにもかかわらず、都は計画があると強弁して検証すらしないまま建設を進
めています。



縄文時代からの湿地帯は
自然保護区域のため入れない

階段の上には多目的広場 湧き水は水鳥池へ注ぎこんでいる



8月24日 止めよう86号線 2回目の証人尋問

開廷 1時30分~
東京地方裁判所
103号法廷です。

写真、ことしの6月9日におこなわれた1回目の
時のもの。この日は、原告団長の高山奇住氏と
赤羽西地域の3人の地権者の方が、心をこめて訴え
ました。◎今回、さがら区議は、公園は区民の宝物と語り



入院でききない事態も

「これまでに経験したことのない感染拡大となっている」。東京都内の新規感染者数が初の3000人台に達した7月28日、新型コロナウイルス対策を助言する厚生労働省の専門家組織「アクトバイザリーボード」は強い危機感を示しました。同組織のメンバーで東京都北区保健所の前田秀雄所長に聞きました。

(岡素晴)

従来と比較にならないぐらい強い感染拡大だとみています。変異株の感染力が影響していると思えます。

東京都北区保健所長

前田秀雄さんに聞く



都の入院調整本部に依頼し、病床を探してもらった状況になっています。

区内は、いわゆる重症の患者さんを見る高度な病床はないものの、中等症に対応していただける医療機関は比較的、充実しています。ですから、これまで中等症の患者さんはほとんどが区内の医療機関で対応してもらったことができていました。

(本人提供)

区内の病床が空いていれば、当日のうちに入院していただくことが可能です。しかし、都に広域的に空き病床を探してもらわなければならない事態なので、今はなかなか当日中に病床が見つかるとは限らない状況です。

入院調整中で翌日以降でない入院できないというところは、入院すべき病床にもかかわらず、自宅待機せざるを得ない人が少なからず出てしまうことになりかねません。

自宅で突然重症化し、亡くなるケースを防ぐ上で、保健所としては病状の変化をすぐ確認できるように健康観察などの調整に注力する必要があります。他方、人員体制にも限界があり、感染経路を追跡する積極的疫学調査を後回しにすることも避けられないようになってきています。

(下段につづく)

上段のつづき

東京で病床不足が深刻になった「第3波」の際、感染判明後にしばらく入院の調整がつかない人が急増し、自宅などで死亡する例が相次ぎました。

「第4波」の大阪でも、重症病床が埋まり、高齢の重症者が必要な医療を受けられず、亡くなる人が続出しました。患者さんの中心が重症化リスクの高い高齢者でしたから、医療の逼迫(ひっばく)がすぐに生命の危機に結びついたのでです。

今回の感染拡大について、高齢者の感染、重症化が減っていることを理由に、第3波と比べて危機的状況ではないとする見方も出ています。しかし、楽観視することはできません。確実にワクチン接種の



菅自公政権の「原則能療養」のことがよくわかりました。③

若者の重症者増危く

夏休み・五輪…活発行動の時期

効果で高齢者に感染が広がっていないという意味では第3波とは違いますが、それでも感染自体が第3波よりも非常に大きいのです。

若い人の感染が中心ですから医療体制もしばらくは何とか耐えられると思うのですが、感染のボリュームが増えると当然、若い世代の重症者も増えていきます。高齢者の感染が少ないから大丈夫とはいえず、再び命を助けられない事態があるうるのでとは懸念します。

今回、活動を活発にしがちなムードを生みやすい夏休みやお盆、五輪といった要素が時期的に重なっています。なかなか感染を減らす要素がなく、あと数週間、8月中旬は感染拡大が止まらないのではないかと懸念しています。

北区保健所長 前田秀雄さんに聞く

「ひびく赤旗」2021.8.4付 1面と4面